

本町の情報発信について

● 青野敏

情報発信について町長にお伺い致します。

I T（情報技術）の高度化に伴いインターネットや携帯電話等の飛躍的な技術進歩により、一般社会においても知識や情報が優位になる情報化社会が到来をしております。

本町においても、公式ホームページやフェースブック、SNS（ソーシャルネットワークサービス）及びユーチューブなどにより行政に関する様々な情報発信と情報公開を行い情報化社会に対応しているところであります。

また、企業誘致や移住定住及び空き家関連、地場産品の販売促進事業等々、様々な取組みを道内・道外において実施して情報発信や情報収集を行っている所であります。

今後も、本町のPR及び情報発信・情報収集については行政運営上特に大きな行政課題になると思いますが将来的な取組みの考えをお伺いいたします。

1 点目として、今後の取組みの考えと、拠点となる常設の情報発信ブース設置の考えについて伺います。

2 点目として、鷹栖サポーターズカード所有者の交流会等を開催し、会員相互の情報交換を実施し情報収集行う事はどうでしょうか。

3 点目として、東京都やその近郊に在住する鷹栖町出身者による（仮称）東京鷹栖会を設立し、情報発信・収集を行ってはと思いますが如何でしょうか。

また全国には、本町の出身者・本町に所縁のある方々が多くいらっしゃいます。

そういう方々を観光大使に任命し本町のPR活動や情報収集をお願いする事はどうでしょうか。

以上 3 点について、町長の考えをお伺いいたします。

○答弁 町長

青野議員のご質問にお答えいたします。

1 点目の、今後の取組みの考え方についてですが、企業誘致をはじめ移住定住施策や空き家対策、地場産品の販売促進などは、鷹栖町まちひとしごと創生総合戦略でも主要な施策として位置づけており重点的に推進をしているところです。

情報発信の仕方については、それぞれの事業ごとにターゲットや伝える方法内容に差異違いがありますので一口にはできませんが、基幹産業である農業や熟成度の

高い福祉政策、旭川市と隣接した優位な立地や交通網など、鷹栖町の強みをしっかりと発信しターゲットに応じて見せ方を工夫しながら取り組むことが重要と考えております。

その際、ホームページやSNSソーシャルネットワークサービスなどを中心に町内外でのPR活動などによる情報発信はもちろんのこと、アンケートを活用したモニタリングを行いながら今後も情報発信方法の改善を図り、コミュニケーションや双方向の情報のやりとりを進めることで、施策の効果等も見きわめて改善も進めていきたいと考えてございます。

ご提案の情報発信拠点となる常設ブースを鷹栖町単独で設置することは、現時点では効果よりも負担が大きくなると見込まれるため予定はしておりませんが、議員のご指摘のとおり、情報発信や情報収集が特に重要な行政課題であるというふうに認識してございます。

このため、旭川地域企業誘致東京サテライトオフィスや浅草の丸ごと日本を情報発信・情報収集拠点として活用し、それぞれの特徴を生かして企業誘致や町のPRを行っていききたいと考えてございます。

また首都圏にある移住交流情報ガーデンふるさと回帰支援センターなどの地方を応援していただける場所もありますので、それらを効果的に活用して取り組んでいきたいと考えてございます。

2点目の質問ですが、現在サイモンズカードを活用した鷹栖サポーターズカードの登録者は約1900人になりました。

平成29年度からの取り組みとしてサポーターを対象に、東京で行われたまるごとにつぼんでのイベントや、三鷹の森フェスティバルの案内をいたしました。それぞれ把握できた中での来場者は、出身者を中心に少数にとどまった結果となりました。

鷹栖町への関わりの強弱により鷹栖町への関心度に隔たりがあるのは当然のことと考えておりましたが、少しでも鷹栖町に関心を持っていただけるよう、株式会社サイモンズと協力し、会員の情報分析を行いターゲットに対して一様な情報発信するのではなくその属性に応じた情報発信戦略を立てることが先決であると考えてございます。

こうしたサポーターへの働きかけを進める上では、個人情報の適切な管理運用が課題となりますので、その基盤整備を平成29年度中に進めていくとともに、情報交換の場としてどのような形態が良いのか検討を行います。

3 点目の首都圏に住まわれる鷹栖町出身者への情報発信ですが、東京鷹栖会は鷹栖町にゆかりのある方が自発的に会を発足されるのであれば、すぐにでも応援したいと考えております。

ただ、持続的な活動にはご本人たちの意思が不可欠であり、行政主導で発足させる考えは今のところございません。

観光大使などの首都圏におけるPR活動を担っていただける方がいれば、町としては心強いところではありますが、鷹栖町にはオオカミの桃という特産品があり、必ずしも人だけが観光大使ではないと考えております。

まだまだ鷹栖町の認知度も低い中、こうした町の財産を生かしながら、首都圏をはじめ、町外への発信力強化に努め効果を検証しながら様々な対策を検討していきます。

先ほど述べたサポーター会員の分析等を優先して行い、情報発信方法の検討も進めていきたいと考えてございます。

●青野敏

最初に常設ブース設置の関係ですが、東京サテライトオフィスには旭川市職員 2 名の配置と事務職含めて 3 名配置で業務をされています。

私も何度か事務所に訪問して職員と話をしている中で、精力的に情報発信・収集業務を様々な場所に足を運んで説明している事も存じております。

ただ、まだ開設から数年ですので今の段階では此方からの情報をそれぞれの企業に発信する事は出来ませんが、現段階では情報収集までは出来ていない状況だと思います。

しかしながら、出来るだけ多くの機会を創設して様々な場所での情報収集をする対策も必要だと思います。

東京サテライトオフィスは、本町と旭川市・東川町・東神楽町との1市3町で設置していますので、業務的に職員が足りているのか。また行政間での協議をされているのかお伺いいたします。

○町長

東京サテライトオフィスは議員のご指摘のとおり、1市3町ということで旭川市と鷹栖町、東神楽町、東川町の組織をもって構成されてございます。

サテライトオフィスも開設されてから年数しか経っていないということもございしますし、旭川地域自体が東京方面の方々に認知されていないという状況もございします。

どちらかといえば情報収集もそうですが、まずは情報発信ということで北海道の旭川地域はどういうところにあって、どういう状況でどのような有利な条件がある

かということをもまず発信することが大事だと思っております。

人と人の顔を合わせる部分については、先ほど申し上げましたとおり東京サテライトオフィスや浅草まるごとにつぼんが中心になるだろうと思いますし、その他についてはホームページやインターネットを活用して、広く日本にまた世界に発信をしていきたいというような考え方を持っております。

●青野敏

東京サテライトオフィスの職員は 2 名ですが情報発信を一生懸命されているのは確認しております。

ただ鷹栖町としては、浅草まるごとにつぼんにブース設置して様々な情報発信と情報収集をしておりますし、東京都内及び都心近郊でも鷹栖町のフェアを開いて情報発信やパンフレットを配布しておりますので、是非東京サテライトオフィス職員とも情報共有するのも大事だと思います。

また、東京サテライトオフィスの 2 階には北海道道事務所が有りますので情報等の関わりも持っていただきたいと思います。

また、町長には紹介しましたが有楽町東京交通会館 3 階には、北海道どさんこ旅サロンオフィスもありますので、お互いに協力体制を持ち情報を共有する事も大事ではないかと考えますがどうでしょうか。

○町長

その情報とは幅広いものであり東京サテライトオフィスは、企業誘致を中心に業務をしていただいております。

今は移住定住の関係等も昨年度から随分力を入れておりまして、東京方面及び札幌での新農業人フェア等にも、こちらから出向いて対面で相談をお受けしたりPRさせていただいたりもしております。

その中で、東京サテライトオフィスの人員が 2 名で少ないというなお話もありましたけれども、旭川市本体と鷹栖町及び近郊町村と共同で開催した事もありますので今後の参考にしていきます。

また、この圏域での気候が似通ったこともあり地域が協力して集客力を狙い、連携しながら体制創りを平成 28 年度から積極的に行っているところでございます。

●青野敏

是非、いろいろな場面で行政どうしの協力も町長の立場としてお願いしたいと思います。

また、北海道で暮らそうガイドブックですとか多くのパンフレット紙をはじめ、北海道移住促進協議会の広報誌などで情報発信をしている自治体もあります。

残念ながら北海道で暮そうガイドブックの道北版には鷹栖町の記載がありませんでしたが、是非こういう掲載紙も活用すれば良いと思います。

私は、町民に対する鷹栖町の施策などについては広報誌の配布及びインターネット等で十分発信出来ますが、本当に届けたい情報が正確に相手に伝わっているのかについて懸念される部分があると考えています。

行政としても直接対面で説明して対話をする事により、相手の考えや求めているニーズを的確に把握して行く事が大事だと考えますが如何でしょうか。

○町長

様々な場面で職員が出向いている話をしたほうが分かり易いので話をしますが、昨年東京 11 月 12 日に北海道暮らしフェアとして北海道NPO団体の運営している移住定住の相談会には職員 2 名が出向いて 24 件の相談を受けてございます。

11 月 22 日 23 日は、移住交流情報ガーデンで 4 名の職員が出向いてトマトジュースの試飲も含めてPRをさせていただき、アンケート回収 18 組、個別相談 10 組ということでございます。

11 月 26 日は札幌で新規就農フェアということで農業の関係に対して出向き 9 組の相談を受けてございます。

今年 2 月 12 日には総務省のイベントですがローカルライフを楽しもう移住交流フェアが東京でございまして 10 組の相談を受けてございます。

2 月 24、25 日北海道ウィークの旭川圏域セミナーを北海道との連携事業として東京で行ってございまして、セミナーでは 20 名の方が参加され個別相談を別件で 1 件受けております。

また、鷹栖町の魅力を発信するには此方から出かけるばかりではなく、鷹栖町に来ていただいて鷹栖町の魅力を伝えるということも大事ですから、去年 9 月 3 日にモニター体験ツアーということで、札幌の赤れんがカフェ道庁 13 階にあるレストランの利用者等に呼びかけをしながら町内のモニターツアーや農産物の収穫体験を秋の大収穫祭にぶつけて、鷹栖町の食材を使用してシェフの方にも来ていただいて地元で調理した昼食交流会には 36 名の参加がありました。

町のパンフレットも随分増強し町のタウンガイドも一新して分かり易いものになりましたし、現在、移住定住用に特化したパンフレットづくりも進めてございます。

中でも農業もそうですが、本町は人に優しく子育て支援が充実しているというお話もさせていただいて、女性の方が移住してくるには男性の決定権と女性の決定権どちらが大きいかというと、やはり女性の決定権の方が大きいというデータも出ております。

女性の方がこちらに来るとき何が心配なのかというと、やはり医療・教育・福祉の心配が多いということで、それらを丁寧に説明したパンフレット類も今作成して

いる状況でございます。

更に、旭川圏に近くて医療という面では問題なく享受できますし、教育関係では小学校中学校の学力テストにしても、全国の上位の県と肩を並べるぐらいの学力点数であり、しかも、一人一人に優しく思いやりを持った子供たちが育っているというようなことも十分PRしています。

まだまだ鷹栖町を知らない人たちにもPRを色々な視点からその年代世代によって求めるものが違いますので、それらにあったものを制作をしている途中だということも報告をさせていただきます。

●青野敏

細かくご説明ありがとうございました。私も資料持っていますが、いろんなところへ出向いて職員及び町長が一生懸命PRしているのは私も認めております。

但し、将来に繋げて行かなければ何にもならないので、お互いの情報を共有して情報のやりとりできるような所までいかないと無駄になるのではないのでしょうか。

サテライトオフィスについては今後も1市3町で継続をするとの話ですし、浅草にっぽんについても29年度予算化しているようですから、移住定住の情報やふるさと納税及び町の特産品について継続した取り組みを計画しているようですので、今後またいろんな形の中で情報発信・情報収集に努めて頂きたいと思います。

2点目の質問として鷹栖サポーターズカードの関係です。

これはご存じの通り、平成21年から議員提案で行政発行カードとして鷹栖町が全国に初めて作成したカードです。

現在1900名余りの発行枚数で、町内580枚30.5%、道外約800枚42%、残り道内札幌等々含めて約520枚27.5%の方がいらっしゃいます。

私はこのサポーターカードを持っている方々に対してふるさと通信を年2回発行されていますが、是非この方々を道内では札幌圏、道外ならば東京圏において交流会を実施していろんな考え方を聞いたりすることも大事だと思いますが実施の考えはどうでしょうか。

○町長

これも先ほど答弁をさせていただきましたが、サイモンズカードもサイモンズ社と連携をして少しでも会員の情報分析をしたいと思っています。

ただ、個人情報の関係もあるでしょうから制約はあると思いますけども、その中でもターゲットを絞って事業などを組んでいく検討をしていきたいと考えています。

最初の答弁でもしましたが、それらの方に首都圏でのイベントの案内をしたところ、町内に縁のある人は来てくれましたが、そうでない人はなかなか来てくれな

った様でもございます。

その人その人の目的があらうかと思ひますし、首都圏にどれぐらいの方がいらっ
しゃって、男性・女性ですとか年齢構成ですとか、そういうものもサイモンズ社の
方で提供していただけるようであればより効果的に次の事業の計画を組み立ててい
きたいと考えております。

●青野敏

鷹栖サポーターズカードの件で再度提案を致しますが、サポーターカードは 12
月 31 日の段階で失効ポイントが鷹栖町に還元され寄付されるシステムです。

また、現在サイモンズ社から毎年 30 万 6 年間で総額 180 万円の寄付を頂いて
おりますが、これはサイモンズ社の齊川社長皆様の頑張りで行われております。

是非ともそのサイモンズカードを応援するためにも、今ふるさと納税での返礼品
として鷹栖のお米や牛肉及び特産品を使用していますが、サイモンズカードのポイ
ント交換で鷹栖のお米や特産品を提供する事はどうでしょうか。

そうなれば、より今以上に効果的に効率的にサイモンズのサポーターとなってい
る方々と鷹栖町のつながりがカードできると思ひますが如何でしょうか。

○町長

サイモンズ社とはいろんな連携も進めさせていただいており、青野さんも実際に
行った三鷹の森フェスティバルにおいても鷹栖町のサイモンズカードの入会申込書
と合わせて、お米の配布を行いながらふるさと納税のPRについてもサイモンズ社
の社員の方が手伝いをさせていただき鷹栖町のPRをしていただいております。

先程おっしゃいました失効ポイントをうちの特産品に変えるという部分では、提
案できる部分でありますし、またPRできる部分でもあると思ひますので、決定権
はサイモンズさんに委ねられますけども私たちの方からもそういうコラボレーショ
ン企画はできないかということで、提案をさせていただきたいと思ひます。

●青野敏

ありがとうございます。町長がおっしゃっていただいたような取り組みが出来れ
ば、よりカードを持っている方との繋がりができるかと思ひますので宜しく願い
致します。

更に、28 年度のふるさと納税の件数が 7275 件、27 年度約 4000 件と伺って
おりますが、鷹栖町に関心を持ってふるさと納税をして頂いた方々に対してふるさ
と通信を発送するだけではなくサポーターズ会員になって頂く事に付いてはどうで
しょうか。

○中村総務企画課参事

基本的に納税いただいた方に対しては、手続関係の書類と町長からのお礼状をお送りしていますし、あわせてサイモンズカード鷹栖サポーターへの勧誘ということも行っております。

確かに文書で納税してもらった人に対してサポーターズカードへの介入の意志を確認していたと思います。

但し、電子媒体での納税者についてはそもそもフォーマットがそのようにはなっていないので、紙媒体の方に限られますけれども勧誘は行っています。

併せて、今後の取り組みということでタイミングが合えば手続関係の書類と一緒に、東京方面で行うイベントがあればそのことを周知したりする事についても考えより効果的な発信に繋げていきたいと思っております。

●青野敏

是非そういうことも連携をとりながら情報発信できるように、また情報もらえるようなことをやっていただければと思います。

3 点目の質問ですが、東京鷹栖会及び観光大使の件について再度質問いたします。

東京近郊にもかなりの鷹栖町出身者がおりますが、中には市議会議員を務めた経験をお持ちの方もいらっしゃいますし多くの関係者がおられます。

そういう方々が自分達だけではなかなか定期的な集まりは無いのですが、不幸があったりした時には連絡を取り合いますが、自発的には中々集まる機会が出来ないとの話があります。

誰かが声をかけていただければ協力できるとの話は数人からいただいておりますが、行政としてバックアップしてくれればという事であれば、町長とすれば応援するとの言い方でしょうからそういう方を紹介したいと思えます。

そうなれば町長具体的に考えたりすることは可能でしょうね。

○町長

発足に当たってはスケールメリットも必要だと思いますので、ただの思いだけで小人数でやってしまっただけではそれに対する費用がどれぐらいかかるのかとかそういう部分も計算をしなくちゃいけないと思ってございます。

どちらかといえば、そういう組織があれば良い事は皆さんわかっておりますし、その経費に使うお金は町民の皆さんから預かっている税金でございますので、そういう部分で費用対効果がどうなのかということも慎重に検討し、継続性もあるのかということも考えながら判断をしていく事業だと考えております。

また、青野さんが情報を沢山あるようですから、そういうようなお話も伺いながら検討できるかどうか協議をさせていただきたいと思います。

●青野敏

費用対効果の話が町長からありましたけども、この費用対効果というのはなかなか目に見えないものもありますし、やはりそこには種をまかなければ芽も出ない事だと思います。

現実的に鷹栖町出身者の方が東京近郊、千葉、埼玉も含めてかなりいらっしゃいますので、その人たちは何か行政からお金出してもらって何かをしてくれですとかの考えではありません。

そういう鷹栖会がある事により集まれる機会ができるってということだと思いますし、集まる場面ができれば良い情報も集まりますので再度検討して頂きます様にお願い致します。

○町長

先ほどの答弁と同じ答弁しかできませんけども、状況を勘案して検討させていただきたいと思います。

●青野敏

東京近郊の人達から谷町長是非にも東京鷹栖会を創ってくださいとの陳情を出せるような形にしたいと思います。そのときには皆さんも証人でしょうから後押しをよろしくお願いをしたいと思います。

以上で私からの質問を終わります。